

普及活動情勢報告（令和元年9月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

香り米新品種「^{ぬたのかわ}辻ノ川1号」の生産拡大に向けて ～採種栽培研修会の開催～



栽培ほ場を見学する
生産者ら

8月23日、普及所で、四万十町内の生産者によって育成された水稻新品種「辻ノ川1号」の採種栽培研修会を開催し、品種を育成した生産者など5人が参加しました。

品種の維持に向け普及所が企画したもので、作物専門技術員から、水稻品種の維持方法や種子生産での留意点を説明し、意見交換や栽培ほ場の見学を行いました。

生産者からは、「品種の維持に協力してほしい」「今後は、品種を維持していくための仕組みづくりが必要」などの意見が出ました。

普及所は、関係機関と連携し、香り米新品種の生産拡大の取組を支援していきます。

農薬散布作業の適正化に向けて ～JA高知県幡多地区十和支所シシトウ現地検討会の開催～



散布方法を確認する
生産者

9月5日～9日、JA高知県幡多地区十和支所管内のシシトウのほ場で、現地検討会を9回開催し、生産者延べ49名が参加しました。

普及所からは、農薬散布方法のポイントを説明し、生産者と一緒に農薬散布ノズル「キリナシ」を用いた散布試験を行い、従来のノズルとの違いを比較しました。

生産者からは、「葉裏まで十分散布されている」「ノズルから出る液量が多いから、扱うのが難しそう」などの意見がありました。

普及所は今後も、シシトウの農薬散布作業の適正化の取組を支援していきます。

水田農業の更なる省力化に向けて ～スマート農業第2回実演見学会の開催～



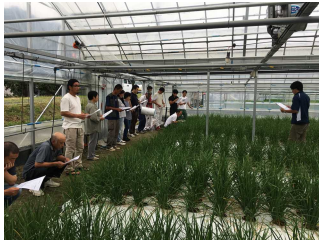
散布用ドローンに興味
津々の参加者

9月11日、現地ほ場で、スマート農業実証事業に取り組む営農支援センター四万十（株）が、ロボットトラクターと散布用ドローンの実演見学会を開催し、農業者など約60名が参加しました。

参加者からは、「担い手不足は深刻、もっと早くスマート農業の時代が来てほしかった」などの感想が聞かれました。また、散布用ドローンの導入を検討している参加者もあり、導入費用や性能、規制内容など具体的な質問が多く出されていました。

普及所は、スマート農業の普及に向け、集落営農法人など大規模経営体を中心に情報発信していきます。

夏期の抽台を防止してニラの品質アップ！ ～JA高知県四万十ニラ部会支部会の開催～



現地検討会の様子

8月26日～9月2日、現地ほ場で、JA高知県四万十ニラ部会の支部会が4回開催され、生産者延べ42名が参加しました。

普及所からは、本年度実施しているニラの抽台に関する実証試験の途中経過などの報告、今後発生が予想される病害虫対策及びそぐり機の効率的な使用方法などについて情報提供しました。

生産者からは「今年はニラの抽台が遅い、その要因をはっきりさせて欲しい」などの意見がありました。

普及所は今後もJAと連携して、ニラの品質アップの取組を支援していきます。

「であいの里」の法人化に向けて ～であいの里6次産業化チーム会の開催～



ワークショップの進め方を説明する普及指導員

9月6日、道の駅四万十大正で、JA高知県女性部直販所「であいの里」を対象にした6次産業化チーム会を開催し、メンバーなど10名が参加しました。

普及所は、「であいの里」の法人化に向け、法人設立の目的や事業戦略などを検討するためのワークショップを行い、SWOT分析では、「メンバーのつながりが強み」「メンバーの高齢化が弱み」などが示され、今後は、所得向上や後継者の育成、人との交流の場づくりなどを目指していくことを共有しました。

普及所は、今後も6次産業化アドバイザーなどを活用しながら関係機関と連携し、6次産業化を推進していきます。

新土壌消毒技術の実証！ ～低濃度エタノールを利用した土壌還元消毒の実証開始～



土壌還元消毒実証を実施中のほ場の様子

9月3日から、露地ショウガほ場で、低濃度エタノールを利用した土壌還元消毒による土壌病害対策の実証を開始しました。

ショウガやミョウガでは、根茎腐敗病や青枯病が難防除土壌病害ですが、昨年度からその対策として低濃度エタノールを利用した土壌還元消毒の実証を行っており、本年度は、露地ショウガ3ほ場、施設ミョウガ2ほ場の計5ほ場で10月下旬まで実証を行う計画としています。

普及所は、農業者からも効果を期待する声が高まっていますので、実証ほ場を増やし、効果を確認しながら、新技術の普及に取り組んでいきます。

大正中津川地区の農業を支える仕組みづくり ～複合経営拠点の整備に向けた検討会の開催～



地域の農業を支える仕組みづくりなどについて説明する普及指導員

9月19日、中津川集落活動センター「こだま」で、複合経営拠点の整備をテーマに話し合いを行い、農業者など10名が参加しました。

普及所は、四万十町の担い手の現状や課題、中山間地域の農業を支える仕組み、目指す姿などについて説明しました。

参加者からは、「地域の人はどうしていくのか、考えていけないといけない」「人・農地プランの実質化や、複合経営拠点支援など制度、補助事業も活用しながら進めていこう」などの意見があり、複合経営拠点法人の設立に向け取り組んでいくことを確認しました。

普及所は、関係機関と連携し、中山間農業複合経営拠点の整備を推進していきます。

米ブランド化アドバイザーの産地視察 ～JA高知県四万十エコ栽培米生産部会の開催～



米ブランド化アドバイザーから助言を受ける生産者ら

9月17日、現地ほ場で、「JA高知県四万十厳選にこまる」の販売先である米穀店から米ブランド化アドバイザーを招いた現地検討会を開催し、生産者など19名が参加しました。

普及所からは、本年度の生育状況や、農薬の使用回数の確認、収穫までの管理について指導しました。

また、意見交換会では、米ブランド化アドバイザーから、大手仲卸業者の米事業からの撤退による流通の変化や、本年多発しているウンカ被害の他産地の発生状況等の情報提供がありました。

普及所は、今後もJAと連携し、「JA高知県四万十厳選にこまる」のブランド化の取組を支援していきます。